

**臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同  
出生・発達分科会（第26期・第4回）  
議事要旨**

1. 日 時 令和6年7月4日（木）9:30～10:30

2. 会 場 オンライン会議（zoom）

3. 出席者（五十音順）

高橋尚人、（以上、会員）

島 蘭 進、船曳康子、水口 雅、水野紀子、武藤香織、石崎優子（以上、連携会員）

4. 議事録作成者 高橋 尚人

5. 議事概要

水口雅連携会員より、「子どもの脳死下臓器提供—子どもの同意？（年齢・知的能力）親の代諾（虐待・ネグレクト）」と題して、この分科会の主題である子どもの同意と親の代諾に焦点を当ててお話しいただいた。

項目として「脳死とは」「小児脳死の実態」「改正臓器移植法」「小児脳死判定基準」「新生児・早期乳児の除外」「被虐待児の除外」「知的障害の除外」「山積みの問題点」に分類して、それぞれに詳しく解説された。特に日本以外の世界的な状況についても説明があり、被虐待児の親からの提供申し出については「ミュンヒハウゼン症候群」についても解説があった。また項目名にもあるように、いろいろな除外規定があるが、それぞれに議論がある点も詳しく説明があった。

最後にまとめとして、「小児の自己決定権は無視されているに等しい」こと、「児童虐待への対応が不適切」であること、「小児法的脳死判定を誰がどうやる？」「脳死判定は100%確実ではない」「臓器提供施設の負担が重い」「看取りの医療体制が未整備」「重症脳障害・重症心身障害児（者）の医療・福祉への悪影響」「情報の開示と検証：透明性」といった山積みの課題があることを提示していただいた。

その後、参加者から活発な質問があった。この分科会での今後の議論において、子ども・親の同意といった中心的テーマに対して大変重要な内容を含む発表であった。

以上